

【発表抄録】

2018年9月7日 高知ちばさんセンター 第1研修室 開催

中山間地域等における地域包括ケアシステム構築に関するフォーラム

講演「看取りと認知症に多職種連携で取り組んでいます ～雪をもとかな熱い思い～」

芸北ホリスティックセンター北広島町雄鹿原診療所 東條 環樹

看取りの文化

- 病院で死ぬことがあまりに普通になってしまった現在。死を日常として感じられない。
- 命は伝えられる。死に行く過程を示すことで家族、周囲に引き継がれる。
- 死は生の延長線上にあり、医療介入の必要性は限られる。

医療の役割

生活の場である在宅・施設で
本人、家族が平穩に
何事もなく過ごすための
家族・介護職のサポート

多職種連携のエッセンス

- それって私のシゴトです！ ×か？
- 情けは人のためならず
- 失敗の要因をまず自らに求める
- 熱い思いを共有する

現在日本は急速に高齢化が進行しており、今後社会全体に大きな影響を与えることが予測される。この時代の医療者として現状を甘んじて受け入れるべきなのか？僻地無床診療所に赴任して以降、地域での医療ニーズの一つである在宅医療を提供すべく努めている。疾病や症状のマネジメントに加え、家族との関係性、他業種、他事業所、行政などと連携のシステム化を試みている。医療、介護資源の不足は前向きな多職種連携、モチベーションの賦活により補うべく日々努力を続け、さらに次世代リーダーを育てることで現在のシステムが **sustainable** になることを目指している。地域への啓発としては **death education** の必要性を痛感し、古き良き日本の **positive** な「看取りの文化」を再興するべく情報発信している。今後も積極的な取り組みと情報発信を続けて行きたい。

出る杭を



のばす！

Be proud of you!